

【“放課後の今”をリアルに伝える、日本で唯一のメールマガジン】



NEWS LETTER

Vol.1 知ってください！コロナの渦中、小学生の放課後で「何が」起きているのか

20.04.15発行

このたびの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、政府の要請による臨時休校が3月2日に開始されてから約1カ月が経過しました。休校開始当初より放課後児童クラブ（学童保育）や保育所は厚生労働省から原則閉室を求められ、弊団体が運営する多くのアフタースクールも衛生管理に最大限の注意を払いながら必要なご家庭のために終日閉室してまいりました。緊急事態宣言発令後は、利用制限がより強くなり、またやむなく閉室を判断した拠点もありますが、子どもたちのために今できることを模索し活動を継続しております。一方で、長期化している長時間閉室により私たちが全国の学童保育も現場スタッフの疲労は既にピークに達しています。

ぜひ全国の放課後現場の現状や、そこで過ごす子どもたちの様子を知らせて頂きたく、ニュースレターを発行致しました。ぜひご一読ください。

01 >> 2月27日、突然の休校要請～放課後関係者の戦いが始まりました



教室でも子ども同士が近づかないよう、できるだけ距離を取っています

準備期間はわずか1日の中、78%（当団体調査）の学童保育が朝からの開室を決定

休校要請発表後すぐに、厚生労働省は学童保育や保育所の原則閉室を依頼。私たちの団体としても居場所を必要とするご家庭のために基本的には子どもたちを受け入れたいという想いをもちつつも、万が一子どもやスタッフが感染したらどう対応するのか、どのようにしたら感染リスクを下げられるのかを、徹底的に話し合い続けました。

最終的には学校・自治体の判断により、必要な子ども、ご家庭のために安心できる場所をつくるため多くの拠点が開室しました。地域や状況に応じてやむなく閉室を判断したアフタースクールもありますが、どちらも今できる最大限の選択をいたしました。

子どもたちの「安全安心」を最優先に考えた工夫点

■感染リスクにさらされる中、スタッフ一丸となって奔走

普段14時頃から開けているアフタースクールを8時から開室する、急に6時間延長することになり、スタッフ調整が急務でした。スタッフ自身の感染リスクもある状況を考慮し、常勤・非常勤問わず休業選択の意思も尊重した上で、閉室している拠点からの応援体制も組みながら、運営に協力してくれるスタッフで運営体制を整えました。

■備品が不足する中での衛生管理の徹底

感染予防のため、健康観察カードの導入、入室時・昼食前の手洗い、換気・消毒など、衛生管理を改めて徹底。加えて、活動ごとに部屋を区切る・校庭を活用する（これは学校側との協力体制が無くてはなりません）、大人数で密着しない活動を提案するなど、安心基地として機能するために様々な工夫をしています。



健康観察カードの記入を徹底しています

02 >> 全国の学童保育を支援！オンラインアフタースクール開校！

突然の環境変化や不安定な毎日に子どもたちのストレスもたまり、怪我やトラブルのリスクが高まっています。同時に、感染症予防のための活動制限の影響もあり、学童保育現場で働くスタッフの間でも子どもたちの過ごし方についての不安が高まっています。

そんな中、子どもたちやスタッフの負担を軽減するため、「オンラインアフタースクール」を手作りで開催しています。「オンラインアフタースクール」はパソコンやタブレットのオンライン会議サービスを利用して複数の学童保育現場をつなげ、なぞなぞクイズをしたりサイエンスクイズをしたりすることを通じて、遠隔地の子どもたち同士の会話でのコミュニケーションを楽しむオンラインプログラムです。



オンラインアフタースクールを手がけるスタッフ



子どもたちは画面に夢中！

ある日、関西地域の子どもが「みんなの学校には面白い先生がいる！？」と質問をすると、東京や東北の子どもたちが「いるいる！」と物まねを交えながら先生の紹介をし始めました。他にも、子どもが自分で考えたジェスチャーゲームのお題の答えを、遠く離れた子が言い当ると大歓声上がる、などなど、オンラインでのつながりを通じて、「自分の思いを表現し、誰かに届く」という、コミュニケーションの素朴な楽しさを感じられる時間が生まれています。

こんな時間を全国の子どもたちにも届け、各地の学童保育を支援したい。そう考え、少しずつ全国へ支援を広げています。また、自宅で過ごす子どもたちに向けたオンラインアフタースクールも、少しずつ取り組みを始めています。

📍 どんな優良オンラインコンテンツも、届かなければ意味がない。放課後のIT環境整備が急務



関西地域でもオンラインアフターを実施

一方で、放課後の居場所にオンラインコンテンツを届ける上での課題もあります。それは、受け手となる学童保育現場のオンライン環境の不十分さです。低予算で運営せざるを得ない学童保育の実情から、満足なオンライン環境のある現場は少数（あっても有志で導入されていることがほとんど）で、多くが「タブレットやPCがない」「Wi-Fiは一応つかえるはずんだけど電波が悪くて接続できない・状態が悪い」「機器はあるが使い方が分からない」などの問題を抱えています。

休校期間中には沢山の優れた小学生向けのオンラインコンテンツが無料公開されました。素晴らしい支援の力ですが残念なことに、十分なオンライン環境のない学童保育で過ごす子どもたちには、これらのコンテンツがなかなか届かなかったようです。学童保育に通う沢山の子どもたちが、オンラインでの可能性に触れられる機会を作るためにも、タブレットやWi-Fiなどの環境整備が急務であることが浮き彫りになりました。

03 >> 緊急アンケートでは「悩みや辛さをやっと伝えられた」との声が

これまでにご縁のあった全国各地の学童保育等に緊急アンケートを実施し、93件の回答が集まりました。今必要な支援は何か、困っていることはないかをヒアリングし、私たちにできることを探しています。現場の皆様の声は、胸が苦しくなるものも多くありました。

子どもたちのストレスは非常に大きく、エネルギーを持って余しています。少人数ならではの関わりの濃さでトラブルもいつになく多いです
(福井県)

職員が少ないので、総出で毎日フルタイム勤務、交代で休めない。
(岩手県)

苦しさを誰に言えいいのかわからない。余裕がない中でこのような状況となり混乱しています
(秋田県)



みなさんから戸惑いの声がたくさん寄せられました

04 >> 今こそ社会の力を放課後に！たくさんの力が子どもたちの支えになります

上記のような声がある一方、「マスクを寄付してもらってうれしかったです！」「学校の教室をお借りし、人員が足りない日は先生方が入ってくださり本当に助かりました」等、保護者や学校など地域の協力に対する感謝の想いも多く寄せられており、前向きにこのピンチをチャンスに変えていこうとする全国の仲間たちに勇気もらっています。

📍 民間企業からのご支援をいただいています

弊社にも多くの企業様からご支援をいただいております。本当に本当に感謝に絶えません。緊急事態宣言発令後も、医療関係にお勧めの方やライフラインに関わる方など、必要とされるご家庭のための開室が求められています。このような状況下では、民間企業の支援、学校の協力、保護者の感謝の声が、大きな支えになります。私たちも、全国の学童保育へも支援の輪が広がるように、取り組みを始めています。ぜひこの支援の力を集めることに、多くの企業様からのご賛同・ご協力を頂けましたら大変ありがたく思います。



これからも、子どもたちのために全力で走り続けます

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収まらず、緊急事態宣言が出されている都市では多くの学校で休校延期が決定されています。引き続き保育所や学童保育等は原則開室が求められ、必要なお家庭のために、また何より子どもたちのために引き続き衛生管理に最大限の注意を払いながら開室しています。子どもたちはこのような状況下でも友達と過ごす楽しさをたくさん感じており、手洗いなどもしっかり行いながら自分と友達との時間を守ろうと頑張っています。このようなかけがえのない放課後の時間をどう過ごすのか、今もう一度社会全体で見直し、子どもの育ちを応援していかなければなりません。これ以上感染数を増やさないための行動を一人ひとりがとること、そしてお互いを思いやり、今自分にできることを必要な人に届けることで社会はこのピンチを機に大きく成長していくことができます。子どもたちの居場所が必要とされる限り、私たちは全力で頑張ります。どうか皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

